

# 日中語の受動文の対照研究

## —文法的特徴と意味機能の相違点を中心に—

趙 蓉俊子

### Abstract

This study is a comparative analysis of the similarities and differences of passive sentence types in Japanese and Chinese from grammatical and semantic perspectives. First, the author classifies the passive sentences of both languages into three types: direct passive, middle passive, and indirect passive. Direct passive in Japanese and Chinese demonstrates the difference in the position of the negative elements and the semantic functions of the actor and the patient NPs. Middle passive is a construction where the subject is a body-part, a relative, or a possession of the patient NP. Middle passive in Chinese is less productive than that in Japanese when the subject is a body-part. Japanese also has indirect passive sentences. Chinese lacks the indirect passive, and instead utilizes verb-resultative construction or a modal complement in simple sentences and the combination of active and passive clauses in complex sentences. Lastly, this paper points out that the Japanese indirect passive sentences obligatorily have adversative meaning. The direct and middle passives may have adversative meaning according to the lexical meaning of the predicate verb.

キーワード……受動文 文法的特徴と意味機能 直接受動文 中間受動文 間接受動文

### 1 はじめに

現代日本語には、例文 (1a) の能動文と例文 (1b) の受動文がある。例えば、「次郎が太郎を叱った」という事態があった場合、動作主は「次郎」であり、動作対象は「太郎」である。このように、例文 (1a) と (1b) は、動作主と動作対象の中でどちらを主語にし、どちらを目的語にするのかが異なる。

- (1) a. 次郎が太郎を叱った。                      b. 太郎が次郎に叱られた。

現代日本語と同様に、中国語にも例文 (2a) と (2b) の能動文と受動文がある。本稿では、能動文とは動作主を主語にし、動作対象を目的語にして示す文であり、その逆を受動文と呼ぶ。

- (2) a. 小刘 骂 了 小张。  
(劉さん 叱る 了 1 張さん)  
「劉さんが張さんを叱った」
- b. 小张 被 小刘 骂 了。  
(張さん PASS 劉さん 毆る 了 1+2)  
「張さんが劉さんに叱られた」

本稿では日中語の受動文の種類を明らかにし、構文レベルにおいて形式的・意味的な観点から、日中両言語の各受動文の相違点を考察する。本論は以下のように構成される。まず2節では、日中語の受動文に関する先行研究を概観する。また、3節では日中語の受動文の定義と分類に焦点を定める。さらに4節では、日中語における直接受動文の形式と意味機能に着目する。なお、5節において形式と意味の観点から、日中両言語の中間受動文の相違点を明らかにする。最後に、6節では日中両言語の間接受動文を対照し、7節では本論文の内容をまとめる。

## 2 日中語の受動文に関する先行研究の概観

本節では、日本語と中国語の受動文に関する先行研究を概観する。

日本語の受動文に関する下位分類については諸説がある。まず、受動文の形式と意味について、三上 (1972: 98-112) は「能動詞」と「所動詞」を定義し、受動文を「はた迷惑の受身」と「まともな受身」に分類した。次に、受動文の機能的・意味的な区別としては、益岡 (1987) は、「昇格受動文」(「受影受動文」と「属性叙述受動文」)及び「降格受動文」に分けて分析する。動作対象を主語にすることに動機づけられる「昇格受動文」と、動作主を消すことに動機づけられる「降格受動文」という相違点がある。このように、日本語の受動文の研究は多岐にわたっており、受動文の捉え方も多様である。本論は主に庵 (2012: 99-104) の「直接受動文」「中間受動文」「間接受動文」という用語を受け継ぎ、形式と意味の観点から日本語の受動文の特徴を検討する。

中国語の受動文に関する先行研究は、主に語彙的受動文と統語的受動文を分けて議論してきた。興水他 (2009: 98-100) は、中国語の受動文を前置詞“被”などを用いる受動文と、前置詞“被”などを用いない受動文に分けるとしている。この点について、馬真 (1997: 163-164) では、“被”構文は受動の意味を表すが、受動の意味を表す文は必ずしも“被”構文とは限らない(“被”字句表示被动, 但表示被动意义的句子不一定用“被”字, 这是汉语语法的特点之一)と指摘する。本論では、例文 (3)(4) のような前置詞“被”などを用いない受動文をマーカーなしの受動文と呼ぶ。

- (3) 电影 票 买 着 了。  
(映画 チケット 買う 達成する 了 1+2)  
「映画のチケットは買ってきた」
- (4) 文章 写 好 了。  
(文章 書く きちんと 了 1+2)  
「文章はきちんと書いた」
- (馬真 1997: 164 例(6)(7) グロス は 筆者の加筆による)

意味的な観点から、杉村 (1992: 52-57) は、「不如意」<sup>1)</sup>という観点から、中国語の受動文を「自己称揚」の受動文と「自己批判」の受動文に分けると述べている。例えば、例文 (5) は「自己称揚」の受動文である。杉村 (1992: 53) は、「難事が話者本人或いは話者の感情が移入された存在によって達成されたという場合にも用いられるものである」と主張する。これに対して、例文 (6) は「自己批判」の受動文であり、「不如意な遭遇」<sup>2)</sup>を言う受動文の動作主として話者自らが提出された時、その発話は話者が自らの行為によって不愉快・不利益を被ったことを積極的に伝えたものである。また、杉村 (2019: 76) は、中国語の受動文における受動という概念の本質を、受動者を視点(perspective)に意外な事態との遭遇を描くものであると述べる。

(5)(前略) 多少 年 谁 也 找 不 着,  
 (いくらか 年 誰 も 見つかる NEG …しあたる)  
 可 叫 我 找到 了。(後略)(杉村 1992: 54 グロス は 筆者の加筆による)  
 (どうも PASS 1SG 見つける 了 1+2)  
 「何年もの間誰にも見つけられなかった、それが僕によって見つけられたんだよ」

(6)(前略) 多少 时间, 被 我 白白 糟蹋 过去! (後略)  
 (いくらか 時間 PASS 1SG むざむざ 無駄にする 過ぎ去る)  
 「どれほどの時間が、私によってむざむざ無駄にされたことでしょう」  
 (杉村 1992: 57 グロス は 筆者の加筆による)

このような受動文に関する研究の流れの中で、主に自・他動詞の記述を巡って議論が展開されてきたが、形式・意味的側面という両方からの記述は、まだ検討する余地がある。本稿では、日中語の受動文の文法的な特徴と受動文の分類を検討し、各受動文の特徴や相違点を明らかにする。

### 3 日中語の受動文の定義と分類

本節では、日本語と中国語における受動文の分類を検討し、各受動文の定義を明らかにする。

現代日本語の能動文では、元の述語動詞がそのまま使われる。一方、例文 (7b)(8b)(9b)(10b) の受動文は、述語動詞の語幹に「-(r)are-ru」という接辞が付くという形で表すが、それぞれの意味的・形式的な特徴は異なっている。

本論文は、受動文で何を主語として表すのか(元の能動文との関係)及び、主語(動作対象)が直接・間接的影響を受けるかどうかにより、日本語の受動文を例文 (7b) の直接受動文、例文 (8b)(9b) の中間受動文と例文 (10b) の間接受動文という 3 種類に分ける。

- (7) a. 次郎が太郎を褒めた。                      b. 太郎が次郎に褒められた。  
(8) a. 泥棒が私の財布を盗んだ。                b. 私は泥棒に財布を盗まれた。  
(9) a. 先生が太郎の頭を叩いた。                b. 太郎が先生に頭を叩かれた。  
(10) a. 昨日雨が降った。                         b. 私は昨日雨に降られて、ひどいかぜを引いた。

まず、例文 (7a) は、「褒める」という動作の動作主である「次郎」の立場から見て、「次郎が太郎を褒める」という事態を表す能動文である。動作主の意味機能を持つ「次郎」が文の主語に、そして動作対象の意味機能を持つ「太郎」が目的語に対応付けられる。このように、動作主は主語であり、動作対象は目的語であるという意味と形式の対応を元の能動文と呼ぶ。意味的には、元の能動文では、動作主の引き起こした動作の影響が直接的に動作対象に及ぶということを表す。それに対し、例文 (7b) のように、動作対象である「太郎」の立場から事態を描く場合は、動詞の語幹に「-(r)are-ru」という接辞が付く受動文で表す。直接受動文では元の能動文の主語が目的語になり、元の能動文の目的語が主語になる。例えば、例文 (7b) のように、形式的に対応する能動文 (7a) の目的語「太郎」が主語になっている。意味的には、動作対象「太郎」は動作主「次郎」が行う動作から直接的に影響を受ける。なお、能動文と比較して事態の参加者が増えず 2 つである。このように、直接受動文とは、例文 (7a) のように、対応する元の能動文の目的語が表す人や物を主語として表現し、動作主の引き起こした行為の影響が直接的に動作対象に及ぶということを表す文である。

また、中間受動文とは例文 (8b)(9b) のように、元の能動文の目的語一部分(詳しくは 5 節)が受動文の主語となっている文で、動作対象は動作主が行う動作行為から直接的・間接的に影響を受けるという 2 つの場合がある。第 1 に、例文 (8b) のように、直接動作対象は所有物「財布」であるが、間接動作対象「私」は間接的に影響を受ける場合である。第 2 に、例文 (9b) のように、元の能動文 (9a) の目的語の一部分が主語となっている場合である。意味的には、間接動作対象「太郎」は動作主「次郎」が行う動作から直接的に影響を受け、直接動作対象は太郎の「頭」である。なお、事態の参加者が能動文と比べて、増えて 3 つになる。

最後に、間接受動文とは、例文 (10b) のように、元の能動文に含まれていない人物を主語として表す受動文である。動作対象はそれ以外の参加者が引き起こした事態によって間接的、好ましくない影響を被るため、迷惑の意味を表す。なお、元の能動文の主語は「雨」であるが、(10b) の間接受動文の主語は「私」に変える。よって、事態の参加者が能動文より 1 つ増える。

これに対し、現代中国語の能動文は、受動マーカー“被”“让”“叫”“给”(以下それぞれ“被”構文、“让”構文、“叫”構文、“给”構文と一括して呼ぶ)を用いない文であり、動作主を主語にし、動作対象を目的語にして表す文を能動文と呼び、その逆を受動文と呼ぶ。

現代日本語とは対照的に、例文 (11)-(14) のように、本論文では、現代中国語の受動文を直接受動文、中間受動文、間接受動文という 3 種類に分ける。

- (11) a. 妈妈 骂 了 小刘。  
(母親 叱る 了 1 劉さん)  
「母親が劉さんを叱った」
- b. 小刘 被 妈妈 骂 了。  
(劉さん PASS 母親 叱る 了 1+2)  
「劉さんが母親に叱られた」
- (12) a. 小偷 偷 了 我 的 钱包。  
(泥棒 盗む 了 1 1SG GEN 財布)  
「泥棒が私の財布を盗んだ」
- b. 我 被 小偷 偷 了 钱包。  
(1SG PASS 泥棒 盗む 了 1 財布)  
「私は泥棒に財布を盗まれた」
- (13) a. 小张 踢 了 小王 的 屁股。  
(張さん 蹴る 了 1 王さん GEN お尻)  
「張さんは王さんのお尻を蹴った」
- b. 小王 被 小张 踢 了 屁股。  
(王さん PASS 張さん 蹴る 了 1 お尻)  
「王さんは張さんにお尻を蹴られた」
- (14) a. 昨天 下 雨 了。  
(昨日 降る 雨 了 1+2)  
「昨日雨が降った」
- b. 昨天 我 被 雨 淋 得 感冒 了。  
(昨日 1SG PASS 雨 降る PRT 風邪を引く 了 1+2)  
「昨日私は雨に降られて、かぜを引いてしまった」

#### 4 日中語の直接受動文の文法的な特徴と意味機能

本節では、日中語における直接受動文の形式と意味機能の相違点を明らかにする。

まず、否定文から見る日中語の直接受動文の相違点を検討する。日本語では、例文 (15)(16) のように否定要素「ない」を用いて述語動詞全体の後ろに置き、述語動詞を否定する。一方、中国語の受動文では、例文 (17) のように、否定要素“没”「ない」や“不”「ない」を受動マーカ―“被”などの前に置く。例文 (18) のように、述語動詞を否定すると非文になるが、例文 (19) のマーカ―なし受動文であれば自然である。

(15) 多くの同業者から受け入れられなかった。

(16) 自分自身は他人に認められないと傷つく。

(17) 这 个 方 案 没 有 被 大 会 采 纳。  
(DEM CL 提案 NEG PASS 大会 受け入れる)  
「この提案は大会に受け入れられなかった」

(18) \* 这 个 方 案 被 大 会 不 采 纳。  
(DEM CL 提案 PASS 大会 NEG 受け入れる)  
(意味：この提案は大会に受け入れられなかった)

- (19) 这 个 方 案 大 会 不 采 纳。  
(DEM CL 提案 大会 NEG 受け入れる)  
「この提案は大会に受け入れられなかった」

そして、動作主は一人称の場合、日本語の直接受動文は例文 (20b) のように不自然であるが、中国語は例文 (21b) のように成立する。

- (20) a. ぼくは一郎になぐられた。 (杉村 1998: 58 例文 (5a))  
b. ?? 一郎はぼくになぐられた。 (杉村 1998: 58 例文 (5b))

- (21) a. 我 被 小 李 揍 了。 b. 小 李 被 我 揍 了。  
(1SG PASS 李さん 殴る 了 1+2) (李さん PASS 1SG 殴る 了 1+2)  
「私は李さんに殴られた」 「李さんは私に殴られた」

なお、直接受動文の意味機能に関して、例文 (22) のように、日本語の間接受動文は迷惑の意味を表すが、直接受動文はマイナスの意味を表すとは限らない。従って、日本語の直接受動文は述語動詞の語彙的意味によって、文全体の意味が決まる。

- (22) a. 彼にプロポーズされた。 b. 私は先生に{褒められた/叱られた}。  
c. 電車で隣の人に「かっこいい」と言われた。

さらに、日本語記述文法研究会 (2009: 225-226) は、直接受動文を事態の動きや状態を描き出すものと、主語の性質を述べるものの2つのタイプに分けられると指摘する。

- (23) 田中が佐藤に嫌われている。 (日本語記述文法研究会 2009: 226)  
(24) ブラジルでは、ポルトガル語が話されている。 (日本語記述文法研究会 2009: 226)

日本語記述文法研究会 (2009: 226) によれば、例文 (23) は、対応する能動文と同じ事態を表し、能動文と受動文の選択には、事態の客観的な意味ではなく、談話の中では視点や主題をなるべく一貫させた方がわかりやすい、などといった配慮が重要であると指摘し、例文 (24) のような主語の性質を述べる直接受動文では、主語の表す人や物の評価や永続的な特徴などが述べられると述べている。

これに対し、杉村 (1992: 50) では、中国語の直接受動文は例文 (25) のように、不如意な「感情色彩」を伝えることが多いと指摘し、「感情色彩」を帯びない受動文の多くは例文 (26) のよ

うに、情景描写に用いられ、観察の視点や表現の技法には欧化語法的特徴の顕著なものが多いと述べている。

(25) 衣服 被 他 撕破 了。

(服 PASS 3SG 引き裂く 了 1+2)

「服は彼に引き裂かれた」

(杉村 1992: 49 グロス は 筆者の加筆による)

(26) 树梢 被 夕阳 涂上 了 一 层 金色。

(梢 PASS 夕日 塗り付ける 了 1 一 層 金色)

「梢が夕日によって一層の金色を塗り付けられた」

(杉村 1992: 50 例文 (2-7) グロス は 筆者の加筆による)

最後に、動作主や動作対象が有情物であるか非情物であるかについて検討する。日本語の直接受動文は、例文 (27a)(27b)(27c) のように、動作対象が非情物であり、動作主が有情物の場合許容されない。さらに、例文 (27d) では、動作対象が非情物でありながら、動作主は不定であるため文が成り立つ。また、例文 (27e) のように、動作主が非情物で、動作対象は有情物の場合でも成り立たない。

(27) a. \* 着物が花子に着られた。

(片山 2005: 333 例文(8b))

b. \* カシスオレンジが彼女に飲まれる。

c. \* 足が私に折られた。(自分の不注意によるものである場合)

d. 展示物が何者かに持ち去られた。

(日本語記述文法研究会 2009: 219)

e. \* 王さんが階段に転ばされた。

一方、中国語では、例文 (28a)(28b) の主語(動作対象)が非情物の場合の直接受動文は存在する。なお、例文 (28c) の動作主が非情物「台阶」「階段」の場合もある。例文 (28d) のように、主語「足」は非情物の場合にも文が成り立つ。

(28) a. 和服 被 花子 穿 了...

b. 橙汁 被 她 喝 了...

(着物 PASS 花子 着る 了 1+2)

(ジュース PASS 3SG 飲む 了 1+2)

「着物は花子が着た」

「ジュースは彼女が飲んだ」

- c. 小王 被 台阶 绊倒 了。 d. 腿 给 摔坏 了。  
 (王さん PASS 階段 つまずく-倒れる 了 1+2) (足 PASS 落ちる-壊れる 了 1+2)  
 「王さんが階段の段差につまずいて倒れてしまった」 「足が落ちて怪我をしてしまった」

また、日中語では、動作主も動作対象も非情物の場合、例文 (29)(30) のように成立する。

- (29) a. 風が屋根をふきとばした。 b. 屋根が風にふきとばされた。  
 (30) a. 太阳 晒干 了 衣服。 b. 衣服 被 太阳 晒干 了。  
 (太陽 干す-乾かす 了 1 服) (服 PASS 太陽 干す-乾かす 了 1+2)  
 「太陽は服を干して乾かした」 「服は太陽に干して乾かされた」

本節の内容は、表 1 で示すようになる。表 1 は日中語における直接受動文の文法的な特徴と意味機能の相違点を示すものである。

表 1. 日中語における直接受動文の文法的な特徴と意味機能の相違点（筆者作成）

	日本語の直接受動文	中国語の直接受動文
動作主が一人称である 場合	不自然である	成り立つ
意味機能	①事態の動きや状態を描き出す ②主語の性質を述べる	①不如意な「感情色彩」を伝えることが多い ②情景描写
動作主が有情物で、動作 対象は非情物の場合	成立せず、例外として動作主が 不定の場合は成り立つ	成立する
動作主が非情物で、動作 対象は有情物の場合	成立しない	成立する
動作主も動作対象も非 情物の場合	成立する	成立する

## 5 日中語の中間受動文の文法的な特徴と意味機能

本節では、日中語の中間受動文の構造、能動文や直接受動文との関連性を対照する。

日本語の中間受動文<sup>3)</sup>が成り立つのは、例文 (24a)(25a)(26a) のように、元の能動文が「動作主が 間接動作対象 の 直接動作対象 を V」 という構造を持つ文である。



庵 (2012: 103) では、直接動作対象が身体部分、持ち物、親族を表す名詞の場合に限られると指摘している。これに基づいて本論文では、中間受動文の直接動作対象は全部間接動作対象の所有物であるが、所有物を譲渡可能か譲渡不可能かによって区別する。即ち、所有物は譲渡可能である一方で、身体部分と親族は一般的に譲渡不可能である。例えば、例文 (31c)(32c)(33c) は元の能動文 (31)(32)(33) のそれぞれに対応する直接受動文である。例文 (32c) と (33c) という直接受動文は自然である一方で、例文 (31c) は不自然である。従って、直接動作対象が身体部分である場合、元の能動文に対応する直接受動文は成立しない。直接動作対象の種類(身体部分、所有物、親族)が、直接受動文になれるかどうかに関連する。

- (31) a. 次郎が太郎の頭を殴った。                                b. 太郎が次郎に頭を殴られた  
       c. ? 太郎の頭が次郎に殴られた。
- (32) a. 泥棒が彼女の自転車を盗んだ。                                b. 彼女が泥棒に自転車を盗まれた。  
       c. 彼女の自転車が泥棒に盗まれた。
- (33) a. 太郎が次郎の父を殺した。                                b. 次郎は太郎に父を殺された。  
       c. 次郎の父が太郎に殺された。

一方、中国語において中間受動文が成り立つのは、例文 (34a)(35a)(36a) のように元の能動文が「動作主 V 間接動作対象 的 直接動作対象」という構造を持つ文である。例文 (34c)(35c)(36c) は (34)(35)(36) のそれぞれに対応する直接受動文である。

日本語と同様に、直接動作対象が身体部分、所有物、親族を表す名詞の場合に限られる。例文 (35c)(36c) の直接動作対象は所有物と親族であり、元の能動文に対応する直接受動文は自然である。なお、例文 (34d)(34e) の述語動詞は心理的動詞<sup>4)</sup>である。が、例文 (34c) の直接動作対象は身体部分であり、生産性<sup>5)</sup>に乏しい。この場合、中間的受動文の述語動詞は物理的・身体的接触<sup>6)</sup>を表す動詞である。また、直接動作対象が身体部分と所有物の場合、例文 (34b)(35b) の中間受動文は成立する。最後に、例文 (36a) のように、直接動作対象が親族を表す名詞の能動文である場合、(36b) の中間受動文より (36c) の直接受動文にしたほうが自然である。

従って、直接動作対象が身体部分である場合、中国語の中間受動文は日本語ほど生産的ではないと見られる。

- (34) a. 小王 拍 了 小张 的 头。 b. 小张 {被/叫/让/\*给} 小王 拍 了 头。  
       (王さん 叩く 了 1 張さん GEN 頭) (張さん PASS 王さん 叩く 了 1 頭)  
       「王さんが張さんの頭を叩いた」                                「張さんが王さんに頭を叩かれた。」

c. \* 小张 的 头 {被/叫/让/给} 小王 拍 了。  
(張さん GEN 頭 PASS 王さん 叩く 了 1+2)  
「張さんが王さんに頭を叩かれた」

d. 他 求婚 时, 我 的 心 被 打 动 了。  
(3SG プロポーズ 時 1SG GEN 心 PASS (心を)動かす 了 1+2)  
「プロポーズされた時に、私は心を揺さぶられた」

e. 学生 们 的 大脑 被 激 活 了。  
(学生 たち GEN 脳 PASS 呼び起こす 了 1+2)  
「学生たちの脳は呼び起こされた」

(35) a. 小 偷 偷 了 她 的 自 行 车。 b. 她 {被/叫/让/给} 小 偷 偷 了 自 行 车。  
(泥棒 盗む 了 1 3SG GEN 自転車) (3SG PASS 泥棒 盗む 了 1 自転車)  
「泥棒が彼女の自転車を盗んだ」 「彼女が泥棒に自転車を盗まれた」

c. 她 的 自 行 车 {被/叫/让/给} 小 偷 偷 了。  
(3SG GEN 自転車 PASS 泥棒 盗む 了 1+2)  
「彼女の自転車は泥棒に盗まれた」

(36) a. 凶 手 杀 了 小 李 的 弟 弟。  
(犯人 殺す 了 1 李さん GEN 弟)  
「犯人が李さんの弟を殺した」

b. \* 小 李 {被/叫/让/给} 凶 手 杀 了 弟 弟。  
(李さん PASS 犯人 殺す 了 1 弟)  
「李さんは犯人に弟を殺された」

c. 小 李 的 弟 弟 {被/叫/让/给} 凶 手 杀 了。  
(李さん GEN 弟 PASS 犯人 殺す 了 1+2)  
「李さんの弟が犯人に殺された」

日中語の中間受動文の形式及び、能動文や直接受動文との関連性を表 2 で対照する。

表 2. 日中語の中間受動文の形式と意味機能（筆者作成）

受動文の種類			日本語		中国語	
			中間受動文	直接受動文	中間受動文	直接受動文
直接動作対象の種類	譲渡不可能	身体部分	○	×	○	物理的・身体的接触×
		親族	○	○	×	○
	譲渡可能	所有物	○	○	○	○

(○は自然であり、×は不可能を示す)

本節ではまた意味機能という観点から、日中語の中間受動文の相違点を考察する。まず、中間受動文には2種類がある。第1に、直接動作対象が身体部分である場合、直接動作対象も間接動作対象も動作主から直接的に影響を受ける。例文(37b)(38b)では、間接動作対象「次郎」は動作主「先生」が行う動作から直接的に影響を受け、直接動作対象は次郎のお尻である。

- (37) a. 先生が次郎のお尻を蹴った。                      b. 次郎が先生にお尻を蹴られた。
- (38) a. 老师 踹 了 次郎 的 屁股。  
       (先生 蹴る 了 1 次郎 GEN お尻)  
       「先生が次郎のお尻を蹴った」
- b. 次郎 {被/让/叫/给} 老师 踹 了 屁股。  
       (次郎 PASS 先生 蹴る 了 1 お尻)  
       「次郎が先生にお尻を蹴られた」

第2に、直接動作対象が持ち物と親族・知人である場合、直接動作対象が直接的に影響を受け、間接動作対象が間接的に影響を被る。例文(39b)(40b)(41b)(42b)のように、直接動作対象は「カバン」「妹」であるが、間接動作対象「私」「太郎」は間接的に影響を受ける。

- (39) a. あのスリが私のカバンを奪った。                      b. 私があのスリにカバンを盗まれた。
- (40) a. 那 个 小 偷 抢 了 我 的 包。  
       (DEM CL すり 奪う 了 1 1SG GEN カバン)  
       「あのスリが私のカバンを奪った」
- b. 我 {被/让/\*叫/\*给} 那 个 小 偷 抢 了 包。  
       (1SG PASS DEM CL すり 奪う 了 1 カバン)  
       「私があのスリにカバンを奪われた」

- (41) a. 次郎が太郎の妹をけなした。                      b. 太郎は次郎に妹をけなされた。  
(42) a. 次郎 诋毀 了 太郎 的 妹妹。 b. \*太郎 {被/让/叫/给} 次郎 诋毀 了 妹妹。  
(次郎 けなす 了 1 太郎 GEN 妹) (太郎 PASS 次郎 けなす 了 1 妹)  
「次郎が太郎の妹をけなした」                      「太郎は次郎に妹をけなされた」

次に、日本語の中間受動文の被害性は、述語動詞の語彙的意味によって決まる場合がある。例文(43b)(44b)(45b)(46b)の直接受動文は事態を表しているのに対し、例文(43a)(43d)(44a)(46a)の方は間接動作対象「鈴木」「鈴木」「彼女」「次郎」が受けた被害の影響<sup>7)</sup>を表している。一方、直接動作対象が持ち物である場合、例文(43c)(45a)のように迷惑の意味を表さない場合もある。

- (43) a. 鈴木がドアに指を挟んだ。                      b. 鈴木<sub>i</sub>の指がドアに挟まれた。  
      c. 鈴木<sub>i</sub>は田中に髪<sub>i</sub>を切られた。                      d. 鈴木<sub>i</sub>は田中に髪<sub>i</sub>に触られた。  
(44) a. 彼女が誰かに車を壊された。                      b. 彼女の車が誰かに壊された。  
(45) a. 太郎がお医者さんに名前を呼ばれた。                      b. ? 太郎の名前がお医者さんに呼ばれた。  
(46) a. 次郎が犯人に妹を殺された。                      b. 次郎の妹が犯人に殺された。

一方、中国語の中間受動文は、単純な述語動詞の語彙的意味だけで、文全体の被害性を判断することができない。例文(47)のように、述語動詞を修飾する成分“重重地”「強く(叩く)」を付け加えることにより、文の被害性がより強くなる。

- (47) a. 她 被 他 拍 了 一 下 肩膀。  
(3SG PASS 3SG 叩く 了 1 一 CL 肩)  
「彼女が彼に肩を叩かれた」  
      b. 她 被 他 重重地 拍 了 一 下 肩膀。  
(3SG PASS 3SG 強く DE 叩く 了 1 一 CL 肩)  
「彼女が彼に強く叩かれてしまった」

## 6 日中語の間接受動文の文法的な特徴と意味機能

本節では、形式的な観点から、日中両言語の間接受動文に関する相違点を考察する。

間接受動文は、元の能動文<sup>8)</sup>が表す事態に直接的に関わらない者(間接動作対象)を主語とする文である。例文(48)(49)のように、元の能動文は、「動作主 が V」或いは「動作主 が 直接動作対象 を V」の構造を持つのに対し、間接受動文は「間接動作対象 が 動作主 に 直接動作対象 を V-(r)are-ru」という構造を備えている。

(48) a. 雨が降った。

b. 私は買い物に行く最中に雨に降られて、とても困った。

(日本語記述文法研究会 2009: 210)

(49) a. 隣の人が高層ビルを建てた。

(村木 1991: 18 例文(78))

b. 鈴木が隣の人に高層ビルを建てられた。

これに対し、単文の場合、中国語の間接受動文は存在しないが、他の表現形式がある。例えば、例文 (50c) のように、結果補語をつけるものが多い。“哭”「泣く」の後ろに結果補語“醒”をつけると自然である。或いは例文 (50d) のように、様態補語“没睡着”「眠れなかった」をつけることで、具体的な悪い影響を表す。が、例文 (50b) は、“没睡着”「眠れなかった」のような事態の結果を表さないと文が成立せず、直接受動文にもなれない。

(50) a. 孩子 哭 了。

(子ども 泣く 了 1+2)

「子どもが泣いた」

b. \*我 被 孩子 哭 了。

(1SG PASS 子ども 泣く 了 1+2)

「私が子どもに泣かれた」

c. 我 被 孩子 哭醒 了。

(1SG PASS 子ども 泣く-目を覚ます 了 1+2)

「私は子供に泣かれて目を覚ました」

d. 我 被 孩子 哭得 没 睡着。

(1SG PASS 子ども 泣く PRT NEG 寝る-R)

「私が子どもに泣かれて眠れなかった」

また、複文の例文 (51)(52) で示すように、日本語の間接受動文は中国語の能動文に対応する場合が多く、例文 (50c)(50d) のような直接受動文に対応する場合もある。

(51) 正忙 的 时候, 来 了 客人, 结果 工作 没 干成。

(忙しい GEN 時 来る 了 1 お客 結局 仕事 NEG 終わる-R)

「忙しいときに客が来られて、結局仕事もできなかった」

(グループ・ジャマシイ (2001: 819) グロスは筆者による加筆)

(52) 他 老婆 跑 了, 他 非常 沮丧。

(3SG 奥さん 逃げる 了 1+2 3SG 非常に がっかりしている)

「彼は奥さんに逃げられて、すっかり元気をなくしてしまった」

(グループ・ジャマシイ (2001: 819) グロスは筆者による加筆)

そして、間接受動文の主節は、悪い結果的影響を表す場合が多い。日本語記述文法研究会 (2009: 210) は、日本語の間接受動文は、例文 (53a) のように、単独の1文としては聞き手には理解しにくい場合があり、例文 (54)(55) のように、複文の従属節を付け加えることにより、迷惑さの背景を補足説明する場合には自然になりやすいと述べている。

(53) a. ? 私は君にそこに立っていられる。

b. 私は君にそこに立っていられると、仕事がやりにくいんだよね。

(日本語記述文法研究会 2009: 210)

(54) 人類はもともと好戦的という認識で割り切られては困る。 (『城山三郎全集』)

(55) ピッチャーはランナーに走られて、すこし慌てました。 (藤原 2018: 162)

一方、中国語では、“这么(このように)一<sup>9</sup>V”というフレーズを従属節に挿入すると、文が成立するが、従属節において直接受動文が形成される。例文 (56b) は、主節のような事態の結果を表さないと文が成立せず、直接受動文にもなれない。また、例文 (56b) のように、主節は悪い結果を示すものもあり、例文 (57) のような主節はいい結果を示すものもある。

(56) a. 被 他 这么 一 笑, 我 什么 都 忘 了。

(PASS 3SG このように ADV 笑う 1SG 何 ADV 忘れる 了 1+2)

「彼にそんな風に笑われて、私は何もかも忘れてしまった」

b. \* 被 他 这么 一 笑。

(PASS 3SG このように ADV 笑う)

(意味: 彼にそんな風に笑われて…)

(57) 幸亏 他 这么 一 介绍, 大家 都 认识 了。

(幸いに 3SG このように ADV 紹介する みんな 全て 知り合う 了 1+2)

「幸いに彼にそんな風に紹介されて、みんなは全て知り合うようになった」

迷惑性という観点からは、日本語の間接受動文の動作対象は間接的に好ましくない影響を受け、義務的迷惑や被害が含意される。

まず、例文 (58) では、「息子が家出した」ことは迷惑であり、例文 (59) の「母」は「父」

が死んだことの悪い影響を受け、被害を被った。なお、庵 (2012: 107) によれば、例文 (60) の「直す」のような恩恵的な意味を表す動詞とともに使うと迷惑の気持ち(「ありがた迷惑」)を表すことになる。なお、庵他 (2001: 103) は、例文 (61a) という事態自体は迷惑の意味を持っていないとしている。

(58) あの人は息子に家出された。

(59) 父に先立たれた母が色々苦勞してきた。

(60) 私はともだちにおもちゃを直された。 (庵 2012: 107 例文(39))

(61) a. 良子の夫が真実を知っている。 (庵他 2001: 103 例文(4a))

b. 良子の夫に真実を知られて困っていた。 (庵他 2001: 103 例文(4b))

間接受動文は「迷惑」を表すが、庵 (2012: 107) によれば、これは「Vてもらう」構文で表される「恩恵」と意味的に対立する。例えば、例文 (62) の「V てもらう」構文は統語的に恩恵を表すものであるため、「壊す」のような非恩恵的な意味を表す動詞とともに使っても動作対象「私」にとって好ましいことをされたことになる。

(62) 私は友だちにおもちゃを壊してもらった。 (庵 2012: 107 脚注例文(ウ))

これに対し、日本語に対応する中国語の表現は、例文 (63)(64) のように、接続詞“因为…所以…”「…のために、だから…」を用いる場合が多い。

(63) 那 个 人 因为 儿子 离家出走 了, 所以 他 很 困惑。

(DEM CL 人 …のために 息子 家出 了1+2 だから 3SG とても 困惑する)

「あの人は息子に家出されたため、とても困惑しているらしい」

(64) 因为 父亲 去世 得 早, 所以 母亲 受 了 很多 苦。

(…のために 父 亡くなる PRT 早い だから 母 忍受する 了1 色々 苦しみ)

「父に先立たれたため、母が色々な苦しみを忍受してきた」

本節の内容を表3で表す。表3は日本語の間接受動文の特徴とそれに対応する中国語の表現を示すものである。

表 3. 日本語の間接受動文の特徴とそれに対応する中国語の表現（筆者作成）

	日本語	中国語
元の能動文の構造	「動作主 が V」 或いは「動作主 が 直接動作対象 を V」	動作主 V 了 1+2
間接受動文の構造	「間接動作対象 が 動作主 に 直接動作対象 を V-(r)are-ru」	間接受動文は存在しないが、他の表現形式がある。例えば、①単文の場合：結果補語や様態補語をつけるものが多い ②複文の場合：能動文と直接受動文で表すものが多い
主節はどんな結果的影響を表すのか	悪い結果的影響を表す場合が多い	“这么(このように)－V” フレーズを従属節に挿入し、悪い結果的影響も悪い結果的影響もある
迷惑性	義務的迷惑や被害が含意され、「ありがた迷惑」を表す場合もある	接続詞“因为…所以…” 「…のために、だから…」を用いる場合が多い

## 7 まとめ

本稿では日中語の受動文の種類を明らかにし、構文レベルにおいて形式的・意味的な観点から、日中両言語の各受動文の相違点を考察した。まず、3 節では、日中語の受動文を直接受動文、中間受動文と間接受動文に分けたうえで、各受動文の定義を解明した。そして、4 節では、否定要素の位置、動作主や動作対象の意味機能などの角度から、日中語の直接受動文の相違点を説明した。また、5 節では、日中語の中間受動文の直接動作対象を譲渡可能の所有物、譲渡不可能の身体部分と親族に分けた。結論として、直接動作対象が身体部分の場合、中国語の中間受動文は日本語ほど生産的ではないことが明らかになった。6 節では、日本語の間接受動文と対照的に、中国語の間接受動文は存在しないが、他の表現形式があることを指摘した。例えば、単文の場合は、結果補語や様態補語をつけるものも多く、複文の場合は、能動文と直接受動文で表すものが多いという点である。

最後に、迷惑性という観点から、日本語の直接受動文は述語動詞の語彙的意味によって、文全体の意味が決まることを明らかにした。中間受動文は述語動詞が語彙的意味によって、迷惑の意味を表し、間接受動文は、義務的に迷惑の意味を示すと考えられる。



## &lt;注&gt;

- 1) 李臨定 (1987) と馬真 (1997) はそれぞれ中国語の受動文の「不如意」について以下のように論じる。李臨定 (1987: 222) では、“前一例(好的[姑娘]都叫人挑完了)隐藏着一种不如意的情绪, 后一例(悄悄话让他给听见了)表示了一种不企望发生的事情, 但这都不是针对主语的, 也不是针对句子里的其他成分的, 而是对说话的人(未进入句子)说来是这样”「前者(良い[女の子]はみんな選ばれた)は不本意の気分を、後者(囁きは彼の耳に入った)は起こることが予想されないことを示すが、どちらも主語にも文の他の構成要素にも向けられておらず、(文に入っていない)話し手に向けられる」と述べる。さらに、馬真 (1997: 164) では、“汉语里‘被’字句多用来表示不如意的事情(中略)a.句(麦子被他们运走了)用‘被’, 含有说话人不乐意的感情色彩; b.句(麦子他们运走了)没有用‘被’, 只是客观地报道一个事实。”「中国語では、“被”は主に不本意なものを表すのに使われる。(中略) 例文 a. (小麦は彼らによって持ち去られた)では“被”が使われており、話し手の望ましくない感情が込められる。例文 b. (小麦は彼らが持ち去った)では“被”が用いられず、ただ事実を客観的に陳述する」と主張する。
- 2) 「不如意な遭遇」に関しては杉村 (1992: 49)、杉村 (2019: 77) を参照する。
- 3) 例文 (31b)(32b)(33b) は、「持ち主の受動文」「第三者の受動文」と呼ばれることもある。
- 4) 「苦しめる、悩む、惹く、(心を)揺さぶる」などのような心理的動詞は動作対象の心理的な変化に着目する動詞である。
- 5) 場合によって、生産性が高くなる。例えば、“我的腿被他打断了”「私は彼に足を殴られて折ってしまった」の場合、人称を変えれば文が自然になることもある。
- 6) 本論では古賀 (2008) や山田 (2004) の観点を参考として、「蹴る、叩く、殴る」など動作対象への接触が含意される動詞を身体接触動詞と呼ぶ。例文 (3a) のような動詞を「心理動詞」、例文 (3b) のような動詞を「物理的接触を表す動詞」と呼んでいる。
- 7) ここで論じた「被害」は述語動詞の語彙的意味に繋がりもある。鷲尾・三原 (1997: 43-45) は「語彙的被害」と「排除による被害」に分けて、日本語の受動文の「被害性」について考察した。
- 8) 日本語の間接受動文における元の能動文がないという観点もある(中島 (2007: 81)、庵 (2012: 101)を参照)。
- 9) 李藝 (2017: 107) では、ここの“一”は副詞であり、「ぱつと。さつと。単音節動詞や形容詞の前に置いて、短い動作、または突発的な状況を表す」とされる用法であると指摘している。

## &lt;引用文献&gt;

- 庵 功雄・高梨 信乃・中西 久実子・山田 敏弘 (2001) 『中上級を教える人のための日本語文法ハンドブック』スリーエーネットワーク。
- 庵 功雄 (2012) 『新しい日本語学入門 ことばのしくみを考える 第2版』スリーエーネットワーク。
- 片山 きよみ (2005) 「日本語他動詞の再帰的用法について」『ありあけ 熊本大学言語学論集』4.325-369。
- グループ・ジャマシイ (2001) 『中文版日本語句型辞典—日本語文型辞典 中国語訳簡体字版』(徐一平他(訳))くろしお出版。
- 古賀 裕章 (2008) 「てくる」のヴォイスに関連する機能 森雄一・西村義樹・山田進・米山三明(編)『ことばのダイナミズム』くろしお出版.241-257。
- 輿水 優・島田 亜実 (2009) 『中国語 わかる文法』大修館書店。
- 杉村 博文 (1992) 「遭遇と達成—中国語被動文の感情の色彩—」『日本語と中国語の対照研究論文集(下)』くろしお出版.277-294..
- 杉村 博文 (1998) 《現代汉语表“ 难事实现”的被动句》《世界汉语教学》(『世界中国語教学』)第4期.北京语言学院出版社.57-64。
- 杉村 博文 (2019) 「中国語の受動概念—中日受動文翻訳のための基礎研究—」『中文日訳の基礎的研究(一)』

日中言語文化出版社.65-89.

中島 悦子 (2007) 『日中対照研究 ヴォイスー自・他の対応・受身・使役・可能・自発一』おうふう.

日本語記述文法研究会 (編) (2009) 『現代日本語文法 2 第3部 格と構文 第4部 ヴォイス』くろしお出版.

藤原 雅憲 (2018) 『日本語教育 よくわかる文法』アルク.

益岡 隆志 (1987) 『命題の文法—日本語文法序説』くろしお出版.

三上 章 (1972) 『現代語法序説』くろしお出版.

村木 新次郎 (1991) 「ヴォイスのカテゴリーと文構造のレベル」仁田義雄 (編) 『日本語のヴォイスと他動性』1-30.くろしお出版.

山田 敏弘 (2004) 『国語教師が知っておきたい日本語文法』くろしお出版.

李 藝 (2017) 『現代日本語のヴォイスに関する研究—中国語との対照を交えて—』神戸市外国語大学博士学位論文.

李 臨定 (1987) 《現代汉语句型》(『現代漢語句型』)商务印书馆.

鷺尾龍一・三原健一 (1997) 『日英語比較選書 7 ヴォイスとアスペクト』研究社出版.

馬 真 (1997) 《简明实用汉语语法教程》(『简明实用漢語語法教程』) 北京大学出版社.

## <略語一覧>

ADV:副詞 ASP:アスペクト助詞 CL:助数詞 DE:中国語の助詞“地” DEM:指示詞 GEN: 構造助詞“的”「の」 NEG:否定 PASS:受動マーカー“被”“让”“叫”“给” PREP:前置詞 PRT:中国語の助詞“得” R:中国語の結果補語 V:述語動詞 1SG:一人称単数 2SG:二人称単数 3SG:三人称単数 了 1:完了助詞(動詞の後に置き、動作行為の完成或いは実現を表す) 了 2:文末助詞(事柄の完成や新しい事態の発生を確認する働きをする) 了 1+2:完了助詞、文末助詞(動詞或いは動詞フレーズが文末にくる場合)

## <例文出典>

BCCWJ 『現代日本語書き言葉均衡コーパス』 <http://www.kotonoha.gr.jp>

主指導教員 (江畑冬生教授)、副指導教員 (三ッ井正孝准教授・干野真一准教授)